



OpenJDK 8

コンテナへの OpenJDK 8 アプリケーションの パッケージ化

ガイド

OpenJDK 8 コンテナへの OpenJDK 8 アプリケーションのパッケージ化

ガイド

法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

OpenJDK は、Red Hat Enterprise Linux プラットフォーム上の Red Hat 製品です。コンテナへの OpenJDK 8 アプリケーションのパッケージ化では、この製品の概要と、コンテナでアプリケーションをパッケージ化する方法について説明します。

目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化	3
RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)	4
第1章 コンテナの OPENJDK アプリケーション	5
第2章 コンテナへの OPENJDK アプリケーションのデプロイ	6
第3章 OPENJDK コンテナイメージの更新	7

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) を参照してください。

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

Red Hat ドキュメントに関するご意見やご感想をお寄せください。フィードバックをお寄せいただくには、ドキュメントのテキストを強調表示し、コメントを追加できます。

このセクションでは、フィードバックの送信方法を説明します。

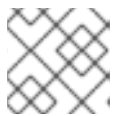
前提条件

- Red Hat カスタマーポータルにログインしている。
- Red Hat カスタマーポータルで、**マルチページ HTML** 形式でドキュメントを表示している。

手順

フィードバックを提供するには、以下の手順を実施します。

1. ドキュメントの右上隅にある **Feedback** ボタンをクリックして、既存のフィードバックを確認します。



注記

フィードバック機能は、**Multi-page HTML** 形式でのみ有効です。

2. フィードバックを提供するドキュメントのセクションを強調表示します。
3. 強調表示されたテキスト近くに表示される **Add Feedback** ポップアップをクリックします。ページの右側のフィードバックセクションにテキストボックスが表示されます。
4. テキストボックスにフィードバックを入力し、**Submit** をクリックします。ドキュメントに関する問題が作成されます。
5. 問題を表示するには、フィードバックビューで問題トラッカーリンクをクリックします。

第1章 コンテナの OPENJDK アプリケーション

OpenJDK イメージには、アプリケーション **JAR** ファイルを自動的に検出し、Java を起動するデフォルトの起動スクリプトがあります。スクリプトの動作は環境変数を使用してカスタマイズできます。詳細は、コンテナの **/help.md** を参照してください。

OpenJDK イメージの **/deployments** ディレクトリーの Java アプリケーションは、イメージの読み込み時に実行されます。



注記

OpenJDK アプリケーションを含むコンテナは、セキュリティ更新では自動的に更新されません。これらのイメージは3か月ごとに1回更新するようにしてください。

アプリケーション **JAR** ファイルはフラット JAR またはシン JAR にすることができます。

- Weak JAR にはすべてのアプリケーションの依存関係が含まれます。
- thin JAR は、アプリケーションの依存関係の一部またはすべてが含まれる他の JAR を参照します。
シン JAR は以下の場合にのみサポートされます。
 - フラットなクラスパスがあります。
 - すべての依存関係は、**/deployments** ディレクトリーにある JAR です。

第2章 コンテナへの OPENJDK アプリケーションのデプロイ

OpenJDK アプリケーションをコンテナにデプロイし、コンテナのロード時に実行することができます。

手順

- アプリケーション **JAR** をイメージ **JAR** ファイルの **/deployments** ディレクトリーにコピーします。
たとえば、以下では、OpenJDK 8 UBI8 イメージに **testubi.jar** と呼ばれるアプリケーションを追加する簡単な Dockerfile を示しています。

```
FROM registry.access.redhat.com/ubi8/openjdk-8
```

```
COPY target/testubi.jar /deployments/testubi.jar
```

第3章 OPENJDK コンテナイメージの更新

Java アプリケーションを使用する OpenJDK コンテナに最新のセキュリティー更新が含まれるようにするには、コンテナを再ビルドします。

手順

1. ベースの OpenJDK イメージをプルします。
2. OpenJDK アプリケーションをデプロイします。詳細は、[コンテナへの OpenJDK アプリケーションのデプロイ](#) を参照してください。
OpenJDK アプリケーションの OpenJDK コンテナが更新されました。

関連情報

- 詳細は、[Red Hat OpenJDK コンテナイメージ](#) 参照してください。